



2025年11月18日

外山区「古文書レスキュー隊」の学生が解き明かす 江戸時代も行われたワクチン集団予防接種 11/23(日・祝) 宗像会館(桜井市)

帝塚山大学(所在地:奈良市帝塚山7-1-1、学長:奥村由美子)文学部日本文化学科の岡島永昌准教授と学生・大学院生は、桜井市外山区に伝わる古文書の調査・整理を進めています。2025年6月から月1回のペースで実施してきた「古文書レスキュー」活動で明らかになった内容を、11月23日(日・祝)に宗像会館(桜井市)で地域住民向けに報告します。



■ 外山区有文書の特徴とこれまでの成果

外山区有文書の総量は約1,500点と見込まれ、現時点(2025年11月)で680点の整理を完了しました。全体の整理には今後1年ほどを要する見通しです。村の運営や意思決定が詳細に記された文書が多数含まれ、地域史の新たな側面が見えてくることが期待されます。

現時点で判明している主な内容は、年貢の推移、村人の変遷、土地所有の状況、用水路の維持などの行政文書で、当時の暮らしや地域運営を具体的に示すものです。小学校の建物建設に関する決議書も含まれています。

文書の中のひとつ、『嘉永七年(1854)御触書写帳』には、「植痘瘡(天然痘の予防接種)」に関する記録が10月から12月にかけて繰り返し登場します。10月24日の記述には、桜井町での痘瘡流行を受け、津(現・三重県津市)から外山に医師が派遣される旨が記されています。「寄集所」に接種対象者を連れてくるような指示も見られ、当時の予防接種が“集団接種”的な形で実施されていたことが読み取れます。

■ 外山歴史講座(中間報告会)～古文書からふるさつを見よう～

日時:2025年11月23日(日・祝)

会場:宗像会館(奈良県桜井市外山870)

【第1部 報告会】13:35～14:35

13:30 開会あいさつ

13:35 ① 外山村の概要と大和・山城の藤堂藩領
荒賀野ノ香(文学部日本文化学科4年)

13:45 ② 外山区有文書『嘉永七年御触書写帳』について
宮本夏乃(文学部日本文化学科3年)

13:55 ③ 外山区有文書の来歴
ー 外山の古文書はどこから来たのか
岡島永昌(文学部 准教授)

14:15 ④ まぼろしの長谷鉄道・外山停留所
松田 丈(桜井市立桜井中学校)

【第2部 トークの会】14:35～15:00

14:35 ① 発表者からのコメント

14:40 ② 会場からの質問タイム

14:50 ③ 学生発表者・関係者からの一言

15:00 閉会

貴社メディアにおかれましても、ぜひ趣旨をお汲み取りいただき、取材ならびに報道のご協力をよろしくお願い申し上げます。お手数をおかけいたしますが、取材いただける場合は事前にご連絡ください。

本件に関する
お問合せ

帝塚山大学 入試広報課 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1

Tel:0742-48-9149 E-mail:koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp(担当:鈴木)

